

デジタル技術を活用した
「幻の安土城」見える化基本設計

令和5年3月

滋賀県

凡 例

1. 『デジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化基本設計』(以下、本設計)は、滋賀県近江八幡市安土町・東近江市南須田町に所在する特別史跡安土城跡を対象とする「幻の安土城」復元プロジェクト事業(平成31年度/令和元年度(2019)～)の3つの柱(柱①:安土城の実像解明と保全 柱②:安土城の見える化 柱③:機運醸成)のうちの柱②、デジタル技術を活用して安土城の価値・魅力を目に見える形にするためのものです。
2. 本設計は、令和4年度(2022)6月に、デジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化基本設計業務委託として、一般競争入札により決定したKYOTO's 3D STUDIO 株式会社に委託(県単費:事業費3,894,000円)して実施しました。
3. 設計にあたっては、文化・観光政策、関連施設、IT技術の各分野の学識経験者と地元代表、地元行政代表者からなるデジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化検討懇話会、および近江八幡市等関係組織に意見聴取を行いました。
4. 本設計の実施体制は以下のとおりです。

【デジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化検討懇話会委員】

No.	氏名	職名	専門分野等
1	木下達文	京都橘大学教授	文化・観光政策
2	城念久子	元安土城郭資料館副館長	関連施設代表
3	小泉智史	大阪国際工科専門職大学准教授	IT技術
4	野瀬信弘	一般社団法人安土山保勝会理事	地元代表
5	川嶋嘉治	近江八幡市安土町総合支所次長	地元行政代表

【オブザーバー】

滋賀県立安土城考古博物館学芸課主幹 高木叙子

【事務局】

滋賀県文化スポーツ部文化財保護課

部 長 谷口義博

次 長 東郷寛彦

課 長 村田昌弥

参 事 土井祐子

参事員 木戸雅寿

安土城・城郭調査係

主幹兼係長 松下 浩

主 幹 岩橋隆浩

副 主 幹 仲川 靖

技 師 松田 篤

【コンサルタント】

KYOTO's 3D STUDIO 株式会社

【懇話会開催記録】

開催日	経緯	主な内容
令和4年 9月16日	第1回懇話会	デジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化基本設計について
令和4年 11月18日	第2回懇話会	デジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化基本設計について
令和5年 1月27日	第3回懇話会	デジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化基本設計について

5. 事業に関わる事務及び執筆については、滋賀県文化スポーツ部文化財保護課安土城・城郭調査係が担当しました。



第1回懇話会の様子



第2回懇話会の様子



第3回懇話会の様子

目 次

第1章. 基本計画のまとめ	1
1.1 事業の背景と目的	1
(1) 「幻の安土城」復元プロジェクトと計画の位置づけ	1
(2) 安土城見える化事業の概要と目的	1
(3) 安土城見える化事業の方向性	1
(4) 計画対象の範囲	1
1.2 デジタル復元にあたっての安土城の現状と課題	1
(1) 安土城を取り巻く環境をめぐる課題	1
(2) 拠点施設及び先行事業等をめぐる課題	1
(3) 調査研究をめぐる課題	2
1.3 「幻の安土城」見える化の基本理念	2
(1) 「安土」と「安土城」の代表的な3つの価値	2
(2) “「幻の安土城」見える化”の基本理念	2
(3) 期待される効果	3
1.4 全体計画	3
(1) ゾーニング計画	3
(2) ゾーン別見える化基本方針	4
(3) ゾーン連携・広域活用方針	4
第2章. 基本設計	5
2.1 「幻の安土城」見える化事業の位置づけ	5
(1) 「VR 安土城」(近江八幡市)について	5
(2) デジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化事業の方向性	6
2.2 スポットを考える上におけるターゲットとゾーン・ルートの考え方	7
(1) ターゲットの位置づけ	7
(2) ターゲットとゾーン・ルートの考え方	8
2.3 ゾーンとゾーンごとのスポットとその内容	10
(1) ゾーン範囲	10
(2) 安土山ゾーン	11
(3) 城下町ゾーン	19
2.4 活用シーンの考え方	27
(1) 起点・終点の考え方	27
(2) ターゲット・移動手段から見たスポットの活用シーン	27
(3) ストーリー展開イメージ	30
2.5 基本設計の概要	32
(1) 導入する手法としてのデジタル技術の考え方	32
(2) 機器の種類と運用	38

(3) 通信環境の整理	38
2.6 まとめ	40
第3章. 今後の事業推進に当たって	41
第4章. 参考	42
(1) イベント等の連携事業	42
(2) 関連アプリ一覧表	43

第1章. 基本計画のまとめ

1.1 事業の背景と目的

(1)「幻の安土城」復元プロジェクトと計画の位置づけ

謎に包まれた安土城の実像を解明し、目に見える形にすることにより、安土城の価値・魅力を発信し、県及び地域の盛り上がりにつなげることを目的に「幻の安土城」復元プロジェクト（以下、復元プロジェクト）を平成31年度（2019）にスタートさせ、①安土城の実像解明と保全②安土城の見える化③機運醸成の3本柱で事業に取り組んでいる。

基本計画は、第2の柱であるデジタル技術を活用した安土城見える化の具体的な内容について検討していくものである。

(2)安土城見える化事業の概要と目的

安土城は築城開始から10年で廃城となり、城下町も移転されるなど、現在の安土からは、安土城や城下町の価値・魅力を実感することが大変困難である。そこでその価値・魅力を分かりやすい形で示すことでこれらに対する理解を深め、次世代に継承すべき大切な文化財であることを知ってもらうため、安土城の見える化を実現し、親しみやすく楽しいバーチャル体験を提供することで、集客力を上げて地域振興・観光振興につなげることを目指す。

(3)安土城見える化事業の方向性

令和8年の安土城築城450年をひとつの目標として実像解明に向けた調査研究をもとに、デジタル技術を活用した「幻の安土城」の見える化を進め、安土城の価値と魅力を広く発信する。

(4)計画対象の範囲

特別史跡安土城跡の指定範囲および周囲に広がる城下町跡、情報発信等の拠点となる滋賀県立安土城考古博物館等の施設、安土城に関わる周辺の歴史的文化遺産等を含めた範囲を対象とする。

1.2 デジタル復元にあたっての安土城の現状と課題

(1)安土城を取り巻く環境をめぐる課題

- ・当時の景観が残るところ失われたところなど、現地の状況に応じたデジタル技術の選択が必要。
- ・安土城の価値や魅力を理解し、高く評価したいという国民・県民等の期待感への対応。
- ・ウィズコロナ、アフターコロナ時代に対応した活用の展開。
- ・地元が誇る宝として、地域の人々の理解と連携のもとでの見える化の実現。
- ・海外からの来訪者等の関心に応える多言語による情報発信が必要。

(2)拠点施設及び先行事業等をめぐる課題

- ・拠点施設を結ぶ周遊ネットワークや施設全体の情報発信など相互連携の強化。
- ・地元の理解、協力のもとでの地域の観光振興施策や地域づくり施策等との連携。

(3) 調査研究をめぐる課題

- ・現時点での調査研究成果を踏まえた、丁寧な映像コンテンツの作成。

1.3 「幻の安土城」見える化の基本理念

(1) 「安土」と「安土城」の代表的な3つの価値

① 歴史的な価値

- ・時代の寵児、天下人信長という人物 [博]
- ・天下人の拠点としての「安土」という場所の価値 [博]
- ・信長が天下人を目指し、国を越え天下を支配する天下布武の拠点、政治の拠点 [博]
- ・安土行幸の舞台としての安土城 [博・現]

② 城郭としての価値

- ・安土山前庭に城の遺構が広がる大規模な全体構造 [現]
- ・高石垣の上にそびえたつ瓦葺き地下一階地上六階の高層建築としての天主 [博・現]
- ・様々な当時の技術の粋を集めた建築 [博]
- ・遠くヨーロッパにもその名前と姿が伝わった城 [博]

③ 都市としての価値

- ・琵琶湖の水運(琵琶湖)と陸上交通(下街道)を利用した町づくり [博・現]
- ・国の中心となる楽市楽座など最先端の経済政策が導入された城下町 [博・現]
- ・武士と町人によって形作られる近世都市の原型 [博・現]
- ・キリスト教を保護し、外国文化にも寛容な町 [博・現]

※[博]は滋賀県立安土城考古博物館で、[現]は現地で見える化する価値であることを示す

“「幻の安土城」見える化”の定義

これまで十分に伝えきれてこなかった安土城及び城下町の価値や魅力等を、わかりやすく伝えるため、映像や言語等による「可視化」(visualization)を行い、その提供を通じて、誰もが簡単に利用でき楽しみながら、歴史や文化財に対する理解と価値の共有へと「波及」(influencing)させていく。

(2) “「幻の安土城」見える化”の基本理念

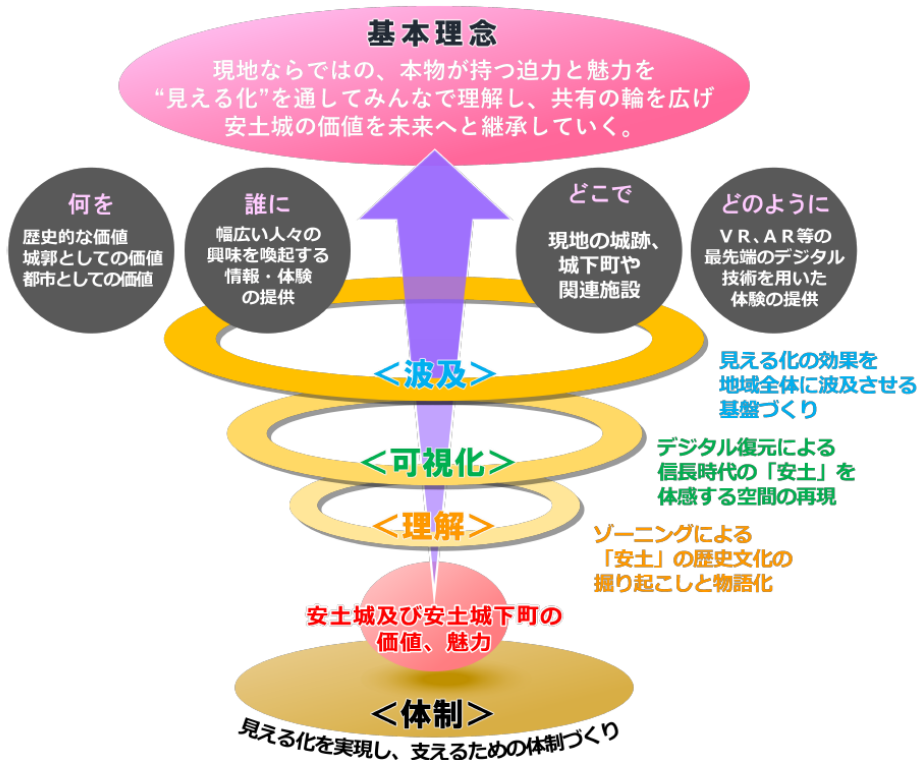
現地ならではの、本物が持つ迫力と魅力を“見える化”を通してみんな理解し、共有の輪を広げ安土城の価値を未来へと継承していく。



(3) 期待される効果

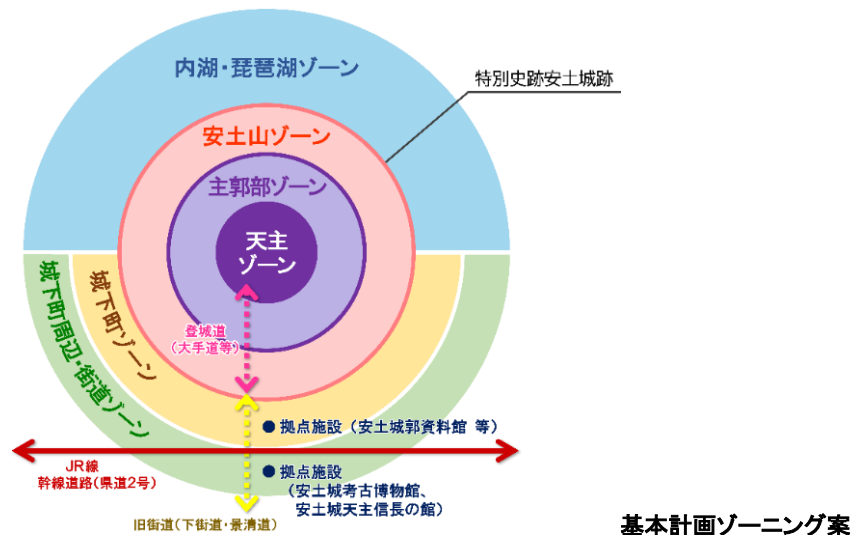
- ・地域及び滋賀のブランド力の向上
- ・「ここでしか味わえない／ここに来たから楽しめる」という特別感のある感動体験満足度の向上
- ・滞在性・回遊性を高めて地域経済の活性化
- ・先端技術による「歴史文化にふれる、感じる楽しみ」
- ・県下各地の歴史文化を活かしたまちづくりや教育、広域周遊観光への展開
- ・安土城築城 450 年に向けた機運醸成
- ・地域の誇りとして文化財を継承していく土壌づくり

“幻の安土城”見える化”基本理念及び基本的方向 概念図



1.4 全体計画

(1) ゾーンニング計画

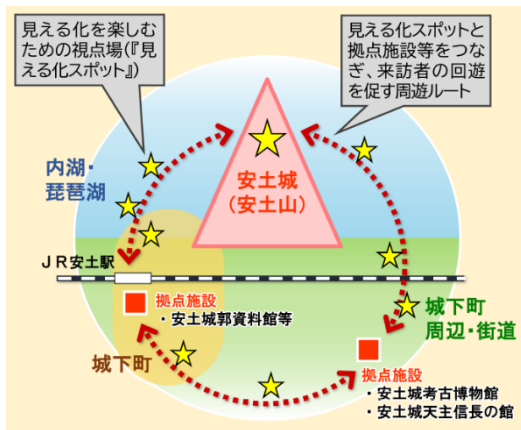


(2)ゾーン別見える化基本方針



(3)ゾーン連携・広域活用方針

見える化の体験を、ゾーン間相互のつながりや連携を交えて来訪者に提供していくことで、安土の多様な価値や魅力を地域全体で楽しみ、学ぶ場へとつなげる。



（仮称）安土まるごと見える化周遊ルート 概念図